

カーペットを美しく保つには、清掃頻度や歩行量に合わせた日常の清掃と、汚れを水際で防止する配慮が大切です。日常的な清掃は、バキューム（掃除機）作業、シミ取り、パイルのほつれの補修などが作業の中心となります。入り口部分には泥除けマットの設置など外部からの汚れを持ち込まないこと、汚れたらすぐに拭き取ることが重要です。また、メンテナンスには建物に応じて、製品や使用状況等を考慮したメンテナンス計画が必要です。

## ■基本のメンテナンス方法

対象商品：タイルカーペット、ロールカーペット

作業内容	用途区分	家庭用～ コントラクト軽歩行用	コントラクト中歩行用	コントラクト重歩行用
		①バキューム作業	0.5回/週	0.5回/週
日常清掃	②シミ取り・補修	適時	適時	適時
	③部分洗浄作業	1回/月	1～2回/月	2～3回/月
定期清掃	④全面洗浄作業	1回/年	1～2回/年	2～3回/年

### ①バキューム作業

- バキューム作業では、カーペットに入り込んだ土砂塵埃の除去を行います。バキュームの器具としては、回転ブラシの付きのアップライト型が適しています。
- バキューム作業は、かけ残しが無いように一定の速度で行います。また折り返しの際は、バキューム走行部部分の端が重なるように走行するようにします。

### ②シミ取り・補修

- シミ取りは基本的に中性洗剤を使用して汚れを拭き取ります。洗剤を使用した部分が再汚染することを防ぐために、ぬるま湯で硬く絞った雑巾で拭いて洗剤が残留しないように仕上げます。
- シミを見つけたら、すぐに拭き取ることが重要です。シミは長時間放置すればするほど落とし難くなるだけでなく、シミの部分に新たに汚れを呼んだりパイルの色が飛び原因となる場合もあります。なおシミの範囲が広い場合には、スポットクリーニングを行います。
- タイルカーペットの場合には、シミ汚れ等が発生した際にその部分だけを新しいタイルカーペットと交換できるように、補修用として敷き込み面積に対して2～3%程度のタイルカーペットを保管することをおすすめします。
- またパイルのほつれ等は発見後ただちに補修するようにします。パイルは引っ張らず、はさみで切り取ります。

### ③部分洗浄作業

- 汚れやすい所の表面近くの汚れを部分的に除去する方法で、計画的に行うほか、突発的な汚れが発生した時には適時スポットクリーニングを行います。
- またポリッシャーで実施できる手軽な部分洗浄作業として、バフingパッド方式があります。専用洗剤を肩掛けスプレーなどで噴霧し、パッドをポリッシャーに装着させて2～3回拭き上げる方法です。

### ④全面洗浄作業

- 全面洗浄作業はエクストラクション方式で行います。エクストラクション方式は、専用洗剤を使用する場合とあらかじめ洗剤を噴霧しておいて回収する場合があります、比較的大きなシミやこぼした量が多いシミが発生した時のスポットクリーニングにも有効です。
- この方式はパイル深部の堆積塵を除去し、パイルの空隙を回復させ美観を回復させる能力に優れています。また他の方式に比較して水分の使用量が多く、汚れの回収力が最も高いクリーニング方法です。
- また残留するクリーニング液を極力除くためにすすぎ工程を必ず入れ、乾燥を十分に行うことも重要です。乾燥が不十分なままカーペットの上を歩行すると再汚染の原因となります。
- なお全面洗浄作業は専門業者に依頼し、全体の工程を想定したメンテナンス計画(作業時間)を立てて行うようにします。

※水や洗剤の目地からの侵入を極力少なくするため、洗浄は2回がけ程度おこないます。またOAフロアで床下配線がある場合は、あらかじめ電源を切っておくなどの処理が必要です。

## 後染め商品のメンテナンス上のご注意

後染めカーペットは、定期クリーニングや日常のシミ取り作業を行う際、使用する洗剤によっては色落ちなどカーペットの風合いを損ねる場合があります。洗剤やシミ取り剤を使用される場合は、できるだけカーペットに影響の少ない中性タイプ※を選定し、洗剤に記載されている注意書きを守って頂き、必ず事前に目立たない箇所での影響の無いことを確認してから使用してください。

※漂白作用のあるシミ取り剤を使用するとカーペットの色落ちの原因となりますのでご注意ください。(次亜塩素酸ナトリウム、過酸化水素、過炭酸ナトリウムなど漂白成分を使用しているシミ取り剤の使用は避けてください。)

## ■推奨カーペット用洗剤

洗剤名	用途	会社名
ボンネットカプセルクリーナー	バフingパッド方式用	株式会社リンレイ
無発泡性クリーナー	エクストラクション方式用	
シミトリクリーナー(マルチタイプ)	シミ取り用	

## ■ウールカーペットのメンテナンス

対象商品：プレミアムバンク、ウールフローリング

ウールは繊維の性質から表面汚れなども遊び毛と一緒に排除する自浄能力があります。さらには水性を持つため、水をはじき、汚れが付きにくく、汚れても落ちやすい特長を持っています。家具の重みなどで押しつぶされた部分も、時間を置くと回復するなど、弾力性・回復性に優れています。一方でウールはアルカリ性の洗剤を使用すると黄変したり、熱湯をかけると風合いを損ねてしまいます。またウールはシミになりにくい繊維ですが、放置すると他の繊維と同様にシミ取り作業で汚れを落とすことになり、繊維を傷めてしまう恐れがあります。したがって通常のメンテナンスに加え、いくつかの点に注意することでカーペットをより長持ちさせることができます。

### 日常のメンテナンス

#### ■掃除機によるメンテナンス

・ブラッシングとバキューミングをしっかりと行います。特に新しいカーペットは遊び毛が多く出るため、使用後3ヶ月程度は毎日のお手入れをおすすめします。  
※バキューミングの際は、回転ブラシ付きのアップライト型掃除機をおすすめします。

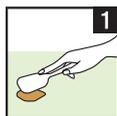
#### ■スチームによるメンテナンス

・ウールカーペットの復元のため、ベタツキを取る為にスチームクリーナーにタオルを巻いて掃除をすると効果が上がります。  
・スチームクリーナーの代わりに熱いおしぼり等での拭き掃除も効果があります。  
※スチームを同じ場所で長くかけると、パイルが黄変する場合がありますのでご注意ください。

#### ■部分汚れのメンテナンス

・部分汚れは手早い処置が大切です。洗剤は中性洗剤を使用します。 ※一般的な中性の食器洗い洗剤の場合、50倍程度で希釈することをおすすめします。  
・乾いた雑巾で押さえながら水分を吸い取ります。表面を強く擦るとウール同士が絡み合い、フェルト状になることがありますのでご注意ください。  
・特殊な汚れは、汚れの性質に適した措置が必要ですが、基本的にはウールのセーターや衣類のシミ取りに準拠してください。  
・汚れを完全に取除こうとしてカーペットを激しくこすったり引っ掻いたりしないでください。致命的な損傷を与えることがあります。

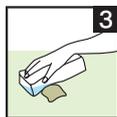
### 部分汚れのメンテナンス例



**1** 洗剤を使う前に、こそぎ落とせる汚れは取り除きます。ネバネバしたものや固体のものはスプーンやフォークで取り除き、汚れが広がるのを防ぎます。



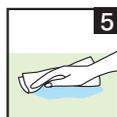
**2** 汚れにぬるま湯をかけ、きれいなタオルやスポンジで軽く叩き、汚れに水分を移します。(セーターなどのシミを叩くように)



**3** ②で落ちない頑固な汚れは、洗剤をタオルやスポンジに染み込ませて、汚れをつまむように移し取ります。



**4** ぬるま湯を含ませた布で、洗剤分を取り除きます。



**5** タオルなどの吸水性の良い布で水分を拭き取ります。最後に乾燥させます。

### ■ウール製品に関してのご注意

※素材の特性上、生産ロットにより若干の色差が生じることがあります。また経年劣化にて色差が生じることがあります。  
※シミ取りを含め、全体的なクリーニング・メンテナンスについては、専門業者へご相談ください。  
※塩素系漂白剤、酸素系漂白剤は使用しないでください。  
※直接熱湯をかけることは絶対に避けてください。  
※防虫剤、殺虫剤、消毒剤を直接カーペットに散布すると、パイルが変色することがあります。使用の際は記載の用法・用量に従い、あらかじめ目立たない箇所を確認してからご使用ください。  
※長時間直射日光のあたる場所では、パイルが変退色する可能性があります。カーテン、ブラインドなどで日よけてください。(髪の毛と同じように紫外線には弱い)  
※コンクリート壁面を流れ落ちる結露水は、パイルを変色させたり、カビを発生させる原因となります。こまめに換気するなど、結露を防ぐ工夫をしてください。  
※パイルがほつれた時、または何かに引っかかるなどしてパイルが飛び出した場合、カットパイル商品なら引き抜かないでハサミで切り揃えてください。  
ループパイル商品のパイルが飛び出した場合、必ず近くのパイルが引っ込んでいたので千枚通しなどで引き上げて均一にしてください。

### ■ウールカーペットに起こる現象について

- ・**バー** : ウール原糸に絡みついた植物性不純物(細かな木屑のようなモノ)をバーといいます。バーは、羊の毛を刈取る際、一部入り込むことがありますが、これはウールの特性でありカーペットの欠陥によるものではありません。
- ・**遊び毛** : 遊び毛はウールなどの短繊維をパイル糸にした繊維の一部が抜け出るために、綿ホコリのようなものが出てくる現象です。短い繊維を撚り合わせているため絡みの弱い一部の繊維が「遊び毛」として初期段階で出てきます。抜け毛とは異なり、商品の欠陥ではありません。こまめな掃除機がけが最も効果的です。しばらくすると(約2～3ヶ月)この遊び毛は使用初期に比べて徐々に少なくなり、カーペット本来の毛艶が現れます。またパイル糸は、ループ状よりもカット状のものは遊び毛が出やすい傾向にあります。この遊び毛は、美観を維持するためにはなくてはならない存在です。
- ・**くも現象** : カットパイルのカーペットを敷いた後、しばらくすると、あちこちに色の差や水溜まりのように見えることがあります。これらは「くも」と呼ばれ、カットパイル、特に無地のカーペットに現れる現象で、ある部分のパイルだけが、他の部分と異なった方向に寝ている状態を示します。残念ながら原因は不明で、現在のところ、カットパイルに「くも」はつきものだ、というのが常識となっています。
- ・**さらし現象** : カーペットを開梱後、酸素や紫外線に触れることで若干の色変化を起こす現象で、ウールカーペットで見られることがあります。



**IICRC**  
Institute of Inspection Cleaning  
and Restoration Certification

私たちは、繊維・インテリア業界初の「IICRC認定企業」です。